２０２５年3月２３日（日）

日本基督教団　大宮教会

受難節第３主日

大宮教会ビジョン
「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
（マタイによる福音書28：19～20）

朝第１礼拝　9:00～10:00
朝第２礼拝　10:30～11:45

〈神の招き〉
前奏　①心よりしたいまつる　ブラームス
②われを憐れみたまえ、おお主なる神よ　バッハ
招きの詞　イザヤ書５５：６～７
交読詩編　８６：５～１０
讃美歌　１７
〈神の言葉〉
聖書　レビ記１９：９～１８
（旧約　聖書協会共同訳 179 頁）
マルコによる福音書１２：２８～３４
祈祷　（新約　聖書協会共同訳 86 頁）
讃美歌　５７
説教　「最も重要な掟」　熊江秀一牧師
祈祷
黙想
讃美歌　５４３
〈神への応答〉
使徒信条
献金
主の祈り

宣教報告②
頌栄　２８
派遣と祝福
後奏
①心よりしたいまつる
マックス・レガー
②わが心の切なる願い
バッハ
宣教報告①

今週の御言葉（マルコによる福音書 12:29～31）
イエスはお答えになった。「第一の戒めは、これである。『聞け、イスラエルよ。私たちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の戒めはこれである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる戒めはほかにない。」

サテライトチャーチ植竹礼拝　10:30～11:30
夕礼拝　18:00～19:00

〈神の招き〉
前奏　サ 愛するイエスよ　バッハ
夕 愛するイエスよ　バッハ
招きの詞　イザヤ書５５：６～７
交読詩編　８６：５～１０
讃美歌　５１
〈神の言葉〉
聖書　ヨブ記１：１～１２
（旧約　聖書協会共同訳 762 頁）
マタイによる福音書１６：１３～２８
祈祷　（新約　聖書協会共同訳 31 頁）
讃美歌　５０４
説教　「サタン、引き下がる」
祈祷　甲賀正彦牧師
黙想
讃美歌　５１８
〈神への応答〉
使徒信条
献金
主の祈り
宣教報告
頌栄　２８
派遣と祝福
後奏　サ 我らは信ず　リンク
夕 血しおしたたる　パッヘルベル

ワーシップ（賛美礼拝）１４：００～１５：００
説教「光の子」熊江秀一牧師
エフェソの信徒への手紙５：８～１１
賛美：さぁ賛美しよう、御手の中で、求めて、主の愛に生かされて、恵みと平安、同じ空の下で、他

次週の礼拝（3月30日）

②１０：３０　説教「高い山の上で」甲賀正彦牧師
出エジプト記２４：３～１１、
マタイによる福音書１７：１～１３
交読詩編１４５：１～１３
讃美歌１２０、５０３、４７６、２８

①　９：００、夕１８：００
説教「すべて神の栄光のために」熊江秀一牧師
詩編１１３：１～９、ペトロの手紙一４：７～１１
交読詩編１４５：１～１３
讃美歌１８、５８、５７９、２８

＊礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。＊◦は祈祷当番の方。＊①は朝第１礼拝、②は朝第２礼拝、夕はタ礼拝。

■今週の祈祷課題■　独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。
1．キリストの体なる教会が豊かに形成される為に　2．東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に
3．受難節（レント）の歩みの為に　4．甲賀牧師感謝会の為に　5．日本基督教団の宣教の為に
6．イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、世界の平和の為に　7．病気の兄姉の為に
＊関東教区お祈りカレンダー　埼玉中国語伝道所　久喜復活伝道所　在日大韓新潟教会

◇先週の説教より　「復活の時」　マルコによる福音書１２：１８～２７、出エジプト記３：１～６　熊江秀一牧師

復活は、聖書で最も大切であると同時に、最も理解に苦しむ教えである。

復活に否定的なサドカイ派の人々が主に問うた。モーセの教え(レビラート婚)に従って、妻が七人の兄弟と結婚したら、復活の時、彼女は誰の妻になるのか。

彼らは復活をこの世の次元、今の生活の延長線上で理解しようとした。

それに対して主は「復活するときには、めとることも嫁ぐこともなく、天の御使いのようになる」と宣言する。復活とはこの世の生とは全く違う。新しい世で全く新しく天使のようになることである。

私たちも復活をこの世の延長線上で考えてしまう。私たちは天で先達たちと再会するという信仰を持っている。教会はそのことを大切にしつつ、同時に警戒もしてきた。ある婦人の夫が天に召された後、彼女は牧師に「私が死を迎えた時には、また夫と一緒に生活できますよね」と尋ねた。すると牧師は「分かりません」と答えた。このやり取りは復活について問いかける。彼女は復活を地上の生活の延長線上で理解し、夫婦の愛の絆に慰めを求めた。しかし復活の希望はそこではなく、神にある。讃美歌 465 の原文が「神はあなたと共におられる。私たちがまた会う日まで」と歌われるように。神に、神が共におられることに、私たちの復活の希望がある。

さらに主イエスは宣言する。この希望はモーセの書からすでに始まっていることを。主イエスは「柴の箇所」を引用して、神が「私はアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神」と告げたと語る。すなわち彼らは死んだけれども、主にあって今も生きていると告げる。

これらの主の宣言は、十字架を目前に語られた。主の十字架と復活によって、すべての人が主にあって生きる道が備えられた。私たちもこの命の道を歩もう。